

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
PBL実習		実習			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 1 年 前期 後期 通年			3 2 回 6 4 時間		
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事) 和久井 久光 (高齢者施設で介護・相談業務、高齢者相談支援事業所で相談支援・地域支援業務に従事)					
[授業の目的]					
1. 地域や施設の現状や課題を知り、その課題について学生自らが主体的に取り組む力を育む。 2. チーム活動を通じて、協調性とリーダーシップの重要性を学び、リーダーとなれる人材に成長する。 3. 講義では学ぶことのできない社会の現状や課題を知り、現状への問題意識や批判的な視点を身に付け、社会性を確立する。					
[授業の方法および概要]					
1. チーム活動を円滑に実施するために、ファシリテーションについて学ぶ。 2. 地域住民や施設職員の思いに共感し、それぞれの現状と課題の聴き取りを行う。 3. 現状のアセスメントや良質な話し合いを通じて行動計画を学生主体で作成する。 4. アクションプランを当事者の方々と共有し、可能な限り協働で実施し、課題解決に向かう体験をする。 5. 実施後の振り返りを通して効果測定を行う。合わせて、他チームとも共有する。					
[授業の到達目標]					
1. ファシリテーションの概要を説明できる。 2. 関係する人たちの状況や思いを的確に聴き取ることができる。 3. 聴き取った内容を整理し、課題解決に向かう方向性について話し合える。 4. 関係する人たちと協力して活動することができる。 5. 活動の結果を振り返り、まとめることができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累計考査を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。					

・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
[使用テキスト・参考文献]
[備考]
・実習スケジュールは、チームにより異なる可能性あり。

[授業計画(内容)]	
1～2	オリエンテーション（授業の目的、自己探求、チーム編成・課題の選定、ファシリテーション体験）
3～4	実習先とのマッチング（担当者からの聴き取り、取り組み課題を確定）
5～6	課題解決案・行動目標作成
7～8	行動計画共有ミーティング（実習内容を確定）
9～12	ワクワク地域実習①（行動計画の実施①）
13～16	ワクワク地域実習②（行動計画の実施②）
17～18	中間振り返り（①②の内容の振り返り、意見交換、計画修正など）
19～22	ワクワク地域実習③（行動計画の実施③）
23～26	ワクワク地域実習④（行動計画の実施④）
27～30	ワクワク地域実習⑤（行動計画の実施⑤）
31～32	実習振り返り・全体発表

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
PBL実習（後期）		実習			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 1 年 前期 後期 通年			3 2 回 6 4 時間		
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)					
和久井 久光 (高齢者施設で介護・相談業務、高齢者相談支援事業所で相談支援・地域支援業務に従事)					
[授業の目的]					
1. 地域や施設の現状や課題を知り、その課題について学生自らが主体的に取り組む力を育む。					
2. チーム活動を通じて、協調性とリーダーシップの重要性を学び、リーダーとなれる人材に成長する。					
3. 講義では学ぶことのできない社会の現状や課題を知り、現状への問題意識や批判的な視点を身に付け、社会性を確立する。					
[授業の方法および概要]					
1. 地域住民や施設職員の思いに共感し、それぞれの現状と課題の聴き取りを行う。					
2. 現状のアセスメントや良質な話し合いを通じて行動計画を学生主体で作成する。					
3. アクションプランを当事者の方々と共有し、可能な限り協働で実施し、課題解決に向かう体験をする。					
4. 実施後の振り返りを通して効果測定を行う。合わせて、他チームとも共有する。					
[授業の到達目標]					
1. 関係する人たちの状況や思いを的確に聴き取ることができる。					
2. 聴き取った内容を整理し、課題解決に向かう方向性について話し合える。					
3. 関係する人たちと協力して活動することができる。					
4. 活動の結果を振り返り、まとめることができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考査点 (75%)					
・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累計考査を実施する。					
・ 平常点 (25%)					
・ 指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。					
・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					

[備考]

- ・実習スケジュールは、チームにより異なる可能性あり。

[授業計画(内容)]

1～2	オリエンテーション（前期の復習、新チーム編成・課題の設定）
3～4	実習先とのマッチング（担当者からの聴き取り、取り組み課題を確定）
5～6	課題解決案・行動目標作成
7～8	行動計画共有ミーティング（実習内容を確定）
9～12	ワクワク地域実習①（行動計画の実施①）
13～16	ワクワク地域実習②（行動計画の実施②）
17～18	中間振り返り（①②の内容の振り返り、意見交換、計画修正など）
19～22	ワクワク地域実習③（行動計画の実施③）
23～26	ワクワク地域実習④（行動計画の実施④）
27～30	ワクワク地域実習⑤（行動計画の実施⑤）
31～32	実習振り返り・全体発表

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 国家試験対策		[授業形態] 講義		必修 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1 年 前期			[授業回数・時間数] 1 5 回 3 0 時間（1 コマ 9 0 分）	
[担当教員および実務経験] 渡辺 康子				
[授業の目的] 社会福祉士国家試験の概要を理解し、試験科目全般に共通する科目横断的な社会福祉の基礎を身につける。				
[授業の方法および概要] 五肢択一形式の問題（国家試験の過去問題を含む）に取り組み、学生自身が解答解説を作成し、他者にその内容を教えることで、自ら用語を調べる姿勢を身につけると同時に、基礎知識の定着を図る。				
[授業の到達目標] ・社会福祉士国家試験の概要を理解する。 ・科目横断的な社会福祉の基礎知識を説明することができる。 ・使用テキスト等を活用し、不明な用語等を自ら調べまとめる方法を習得する。				
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 8 0 % 以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点（1 5 0 点） 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により終末考查を実施する。 ・ 平常点（5 0 点） 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。				
[使用テキスト・参考文献] ・『見て覚える！ 社会福祉士国試ナビ 2021』中央法規出版				
[備考]				

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	社会調査の基礎（第 34 回 国試問題）
2	解説
3	相談援助の基盤と専門職（第 34 回 国試問題）
4	解説
5	相談援助の理論と方法（第 34 回 国試問題）
6	解説
7	福祉サービスの組織と経営（第 34 回 国試問題）
8	解説
9	高齢者に対する支援と児童・家庭福祉制度（第 34 回 国試問題）
10	解説
11	就労支援サービス（第 34 回 国試問題）
12	解説
13	更生保護制度（第 34 回 国試問題）
14	解説
15	考査

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	必修 選択
国家試験対策		講義	
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 1 年 前期 後期 通年		30回 60時間（1コマ90分）	
[担当教員および実務経験]			
渡辺 康子			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験に挑むにあたっての基礎用語や、国家試験に頻出の用語を覚える。			
[授業の方法および概要]			
社会福祉士国家試験科目における基礎用語や国家試験に頻出の用語を調べ、カードにまとめる。この用語カードづくりは、個人作業とグループ作業を通して実施する。そして、作成した用語カードを使ったゲームで、楽しみながら基礎用語を覚える。 また、校内模試において誤答した問題を中心に、用語や基礎知識の復習をする。			
[授業の到達目標]			
・用語の定義等を調べ、文章にすることができる。 ・他者と協働して用語カードを作成することができる。 ・学習方法を工夫しながら、用語を的確に覚えることができる。 ・校内模試を受験し、不確かな知識を確認し、その内容を復習する。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点（150点） 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により終末考査を実施する。 ・ 平常点（50点） 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・『見て覚える！ 社会福祉士国試ナビ 2021』 中央法規出版			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	人体の構造と機能及び疾病（模擬問題集）
2	解説、再チャレンジ
3	心理学理論と心理的支援（模擬問題集）
4	解説、再チャレンジ
5	社会理論と社会システム・現代社会と福祉（模擬問題集）
6	解説、再チャレンジ
7	地域福祉の理論と方法（模擬問題集）
8	解説、再チャレンジ
9	福祉行財政と福祉計画・社会保障（模擬問題集）
10	解説、再チャレンジ
11	障害者に対する支援と障害者自立支援制度（模擬問題集）
12	解説、再チャレンジ
13	低所得者に対する支援と生活保護制度（模擬問題集）
14	解説、再チャレンジ
15	保健医療サービス（模擬問題集）
16	解説、再チャレンジ
17	権利擁護と成年後見制度・社会調査の基礎（模擬問題集）
18	解説、再チャレンジ
19	相談援助の基盤と専門職・相談援助の理論と方法（模擬問題集）
20	解説、再チャレンジ
21	福祉サービスの組織と経営（模擬問題集）
22	解説、再チャレンジ
23	高齢者に対する支援と介護保険制度（模擬問題集）
24	解説、再チャレンジ
25	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度（模擬問題集）
26	解説、再チャレンジ
27	就労支援サービス・更生保護制度（模擬問題集）
28	解説、再チャレンジ
29	まとめ
30	考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		選択必修
福祉専門ゼミ (権利擁護と刑事司法)		演習		
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 1年 前期 後期 通年			15回 30時間	
[担当教員および実務経験]				
星野 和幸				
[授業の目的]				
成年後見制度を中心とした権利擁護、及び、更生保護制度や医療観察制度などを含む刑事司法に関係する機関や施設を見学し、担当職員から話を伺うことにより、権利擁護及び刑事司法の制度や機関・施設に関する理解を深める。				
[授業の方法および概要]				
授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。 授業時には、到達目標に沿って、課題を提示し、テキストやプリントを参考に、グループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、課題への理解を深める。その上で、課題に関する確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。				
[授業の到達目標]				
・ 権利擁護の基本的な制度を説明できる ・ 権利擁護に関係する主な機関や施設を説明できる ・ 刑事司法の基本的な制度を説明できる ・ 刑事司法に関係する主な機関や施設を説明できる				
[成績評価の方法と基準]				
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、授業時の課題を期末考查とする。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。				
[使用テキスト・参考文献]				
・ 菅原好秀著『福祉ライブラリ 権利擁護と法』建帛社 2022年 ・ 菅原好秀著『福祉ライブラリ 司法と福祉』建帛社 2023年				
[備考]				
見学先の施設は、学生の意向及び施設との交渉により、施設の種別及び日程に変更が生じる可能性がある。				

[授業計画(内容)]	
1	オリエンテーション
2	権利擁護と司法福祉に関する施設調べ
3	家庭裁判所見学の準備
4	家庭裁判所見学
5	家庭裁判所見学のまとめ
6	地方裁判所見学の準備
7	地方裁判所見学
8	地方裁判所見学のまとめ
9	法務局・保護観察所見学の準備
10	法務局・保護観察所見学
11	法務局・保護観察所見学のまとめ
12	社会福祉協議会見学の準備
13	社会福祉協議会見学
14	社会福祉協議会見学のまとめ
15	授業のまとめ（発表会）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 福祉専門ゼミ（当事者の語り）		[授業形態] 演習	選択必修
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 15回 30時間	
[担当教員および実務経験] 圓山 里子			
[授業の目的] 社会福祉の専門職として「対象者」と捉えがちな「当事者」の生活世界を、当事者側からの語りを通して学ぶことで、当事者の視点で考える重要性を認識し、将来的にソーシャルワークの専門性を的確に発揮できるようになることを目指す。			
[授業の方法および概要] ①各自の興味にしたがって、Web サイトを検索し、読むものを決める。 ②ゼミメンバー皆で、あるいはグループに分かれてグループメンバー皆で①を読む。 ③ゼミあるいはグループで「当事者の語り」を読んで考えたことをディスカッションする。 ④上記の中で気づいたことや学んだことを各自でまとめる。 ⑤各自の学びをゼミで共有する。			
[授業の到達目標] ・「当事者の語り」を語りのまま受けとめることができる。 ・ディスカッションしたい内容を他者に提示することができる。 ・ディスカッションに積極的に参加し、 ・自らの学びを言語化、文章化することができる。			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、授業時の課題を期末考查とする。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献] ・「当事者の語りプロジェクト」 https://wawon.org/interview/ 等			
[備考]			

[授業計画(内容)]

1	オリエンテーション
2	各自で読む記事を選び、ディスカッションポイントをあげる①
3	グループディスカッション①
4	各自で読む記事を選び、ディスカッションポイントをあげる②
5	グループディスカッション②
6	各自で読む記事を選び、ディスカッションポイントをあげる③
7	グループディスカッション③
8	各自で読む記事を選び、ディスカッションポイントをあげる④
9	グループディスカッション④
10	各自で読む記事を選び、ディスカッションポイントをあげる⑤
11	グループディスカッション⑤
12	各自で読む記事を選び、ディスカッションポイントをあげる⑥
13	グループディスカッション⑥
14	学びの共有
15	まとめ・ふりかえり

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		選択必修	
福祉専門ゼミ（精神保健福祉）		演習			
[対象学科・学年・時期]				[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 1年 前期 後期 通年				15回 30時間	
[担当教員および実務経験]					
星野 和幸					
[授業の目的]					
精神障がいには、精神疾患という病気と、それによる日常生活上の障害という二面性がある。社会福祉士は福祉分野における相談援助の専門職として、精神障がいの二面性を理解し、精神障がい者への適切な支援を行うことが求められる。そこで、この授業では、精神障がい及び精神障がい者を知り、精神障がい者をめぐる社会状況への理解を深め、精神障がい者への支援のあり方を探っていく。					
[授業の方法および概要]					
授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。 授業時には、到達目標に沿って、課題を提示し、テキストやプリントを参考に、グループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、課題への理解を深める。その上で、課題に関する確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
・精神障がいを説明できる ・精神障がい者について説明できる ・精神障がい者への医療について説明できる ・精神障がい者への福祉サービスについて説明できる ・精神障がい者をめぐる社会的状況を説明できる ・精神障がい者への支援のあり方を説明できる					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、授業時の課題を期末考査とする。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『精神保健福祉士養成セミナー3（第6版）精神保健福祉相談援助の基盤〔基礎〕〔専門〕』へるす出版、2017年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	オリエンテーション
2	精神障がいとは①
3	精神障がいとは②
4	精神障がい者とは①
5	精神障がい者とは②
6	精神障がい者への医療①
7	精神障がい者への医療②
8	精神障がい者への福祉サービス①
9	精神障がい者への福祉サービス②
10	精神障がい者をめぐる社会的状況①
11	精神障がい者をめぐる社会的状況②
12	精神障害者への支援①
13	精神障害者への支援②
14	精神障害者への支援③
15	発表会

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	選択必修
ゼミ（シネマソーシャルワーク演習）		演習	
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 1年 前期 後期 通年		15回 30時間	
[担当教員および実務経験]			
櫛野 友則			
[授業の目的]			
様々な社会問題を具現化した映画（フィクション・ノンフィクションを問わない）を用いて、社会福祉士の視点からその問題解決の糸口や活用できる社会資源を見つけること。			
[授業の方法および概要]			
これまで学んだソーシャルワークの知識を基盤として、映画のテーマについてグループワークによる意見集約と問題の解決方法の言語化を到達目標とする。それを本科の課題として提出を求め、その内容の客観性と具体性を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 個人や家族の困難事例について、その問題解決の糸口を見つけることができる。 ・ 社会問題や地域社会における困難事例について、その問題解決の糸口を見つけることができる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標に即した課題を單元ごとに設定し、それを総合的に評価する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
なし			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
1	オリエンテーション
2	難病をテーマとした援助技術演習①
3	難病をテーマとした援助技術演習②
4	社会的養護をテーマとした援助技術演習①
5	社会的養護をテーマとした援助技術演習②
6	ターミナルケアをテーマとした援助技術演習①
7	ターミナルケアをテーマとした援助技術演習②
8	自閉症をテーマとした援助技術演習①
9	自閉症をテーマとした援助技術演習②
10	障害者の地域移行をテーマとした援助技術演習①
11	障害者の地域移行をテーマとした援助技術演習②
12	障害者の地域移行をテーマとした援助技術演習③
13	児童虐待をテーマとした援助技術演習①
14	児童虐待をテーマとした援助技術演習②
15	個別研究発表

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] ソーシャルワーク演習Ⅰ	[授業形態] 演習 及び 講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1 年 前期	[授業回数・時間数] 15 回 30 時間	
[担当教員および実務経験] 渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務		
[授業の目的] ソーシャルワークの支援対象となる人たちが抱える問題の複雑化・多様化に対して、社会福祉士に求められる力量や働きを学び、「地域共生社会」の実現に向けて、①複合化・複雑化した課題を受けとめる多機関の協働による包括的な相談支援体制や、②地域住民等が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制の構築を進めていく。		
[授業の方法および概要] 具体的な課題や状況について観る・聴く・話す・書く・体験する・考える・感じる・振り返るといった能動的な活動を組み合わせることによって、自分や社会への気づきを得て理解を深め、それらを実践に応用するスキルを身につけることを目指す。		
[授業の到達目標] ・ ソーシャルワークの価値に基づいて実践で何をを目指すべきかを述べることができる ・ ソーシャルワークの基本的な視点と知識に基づいて、クライアントの状況を多面的に理解し、他者がわかるように説明することができる ・ ミクロ、メゾ、マクロのそれぞれのレベルでの介入について理解しており、基本的な介入スキルを身につけている ・ ソーシャルワーク実践の評価について理解しており、実践についての自己評価ができき、それを実践の改善に役立てることができる		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (10%) 授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。 ・ 出欠点 (15%) 欠席する毎に点数を引いていく。		
[使用テキスト・参考文献] ・ 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編『ソーシャルワーク演習 [社会専門]』中央法規出版、2021 年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	ソーシャルワーク演習[社会専門] の目標を理解する
2	ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）
3	アセスメント
4	プランニング
5	支援の実施とモニタリング
6	支援の終結と結果評価アフターケア
7	ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー
8	地域における社会的孤立への気付きと生み出す支援のあり方を考える
9	事例演習 1・2
10	事例演習 3、解説（総括）
11	服役を繰り返す福祉ニーズのあるクライアントへの多機関・多職種による支援を考える
12	事例演習 1・2
13	事例演習 3、解説（総括）
14	まとめ
15	考査

授 業 計 画 (シラバス)

【科目名】 ソーシャルワーク演習Ⅰ	【授業形態】 演習 及び 講義	必修 選択
【対象学科・学年・時期】 社会福祉専攻科 1 年 後期	【授業回数・時間数】 15 回 30 時間	
【担当教員および実務経験】 渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務		
【授業の目的】 ソーシャルワークの支援対象となる人たちが抱える問題の複雑化・多様化に対して、社会福祉士に求められる力量や働きを学び、「地域共生社会」の実現に向けて、①複合化・複雑化した課題を受けとめる多機関の協働による包括的な相談支援体制や、②地域住民等が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制の構築を進めていく。		
【授業の方法および概要】 具体的な課題や状況について観る・聴く・話す・書く・体験する・考える・感じる・振り返るといった能動的な活動を組み合わせることによって、自分や社会への気づきを得て理解を深め、それらを実践に応用するスキルを身につけることを目指す。		
【授業の到達目標】 ・ ソーシャルワークの価値に基づいて実践で何をを目指すべきかを述べることができる ・ ソーシャルワークの基本的な視点と知識に基づいて、クライアントの状況を多面的に理解し、他者がわかるように説明することができる ・ ミクロ、メゾ、マクロのそれぞれのレベルでの介入について理解しており、基本的な介入スキルを身につけている ・ ソーシャルワーク実践の評価について理解しており、実践についての自己評価ができき、それを実践の改善に役立てることができる		
【成績評価の方法と基準】 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (10%) 授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。 ・ 出欠点 (15%) 欠席する毎に点数を引いていく。		
【使用テキスト・参考文献】 ・ 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編『ソーシャルワーク演習 [社会専門]』中央法規出版、2021 年		
【備考】		

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	前期振り返り（演習２種から学んだこと）
2	メンタルヘルス課題と社会福祉士の役割・機能を考える
3	事例演習１・２・３、解説（総括）
4	子どもや親の SOS に気付き、家族全体のレジリエンスを高めることを考える
5	事例演習１・２・３、解説（総括）
6	クライアントが一番気になっている問題から支援を考える
7	事例演習１・２・３、解説（総括）
8	地域のニーズに対応した新たなサービス・事業開発を考える
9	事例演習１・２・３、解説（総括）
10	災害支援からソーシャルワーカーの基本姿勢と役割を考える
11	事例演習１・２・３、解説（総括）
12	DMAT・DWAT・DHEAT・JRATとは何か
13	「災害時の福祉支援体制の整備に向けたガイドライン」
14	まとめ
15	考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		講義・演習			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 1年 前期 後期 通年			27回 54時間		
[担当教員および実務経験]					
星野 和幸					
[授業の目的]					
社会福祉士として必要な具体的かつ実践的な専門技術等の習得を図ることを目的とする。また、併せてソーシャルワーク実習の意義について理解をするとともに、実際に実習を行う分野における利用者、施設、事業者、機関、団体、地域社会等に関する基本的な理解をすることを目的とする。そして、これまで学修してきた社会福祉の専門知識を深化させるとともに、自分の援助能力の開発、今後の課題の明確化、自己理解を深める場とし、ソーシャルワーク専門職としての倫理観の理解を図る。					
[授業の方法および概要]					
前期は主に、授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を行い、内容の理解を促進する。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
後期は主に、実習先施設及び施設のある地域について、データ等を収集、分析してその理解を深め、さらに、実習課題ノートの項目に沿って作成を進める。					
[授業の到達目標]					
・実習を行う施設を利用する地域や利用者の実態、生活ニーズ等について具体的データ等を示しながら説明することができる。					
・実習を行う施設の根拠法、機能、業務内容について説明できる。					
・実習を行う施設において行われている関連業務の内容や他職種の役割等について説明できる。					
・実習計画案を作成することができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考查点 (75%)					
・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出により期末考查を実施する。					
・ 平常点 (25%)					
・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。					
・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					

・長谷川匡俊、上野谷加代子、白澤政和、中谷陽明『社会福祉士 相談援助実習 第2版』中央法規出版、2014年

[備考]

[授業計画(内容)]

コマ数 授業の内容

	<前期>
1	実習の意義と目的
2	実習の基本的達成課題①
3	実習の受講にあたって
4	実習の概要①
5	実習の概要②
6	レポート1 課題め
7	実習課題ノートの作成について
8～10	実習課題ノート作成
11	実習先からの内諾
12	実習計画書完成までの流れ
	<後期>
13	事前訪問学習
14	実習直前ガイダンス①
15	実習の基本的達成課題②
16	実習直前ガイダンス②
17	実習の基本的達成課題③
18	実習直前ガイダンス③
19	実習直前ガイダンス④
20	実習課題ノートの作成について
21～23	実習課題ノート作成
24～25	実習課題ノート作成、実習の振り返り
26～27	実習の振り返りとまとめ

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
レポート指導（前期）		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 1年 前期 後期 通年			120回 240時間		
[担当教員および実務経験]					
星野和幸・渡辺康子・白倉啓子・櫛野友則・圓山里子					
[授業の目的]					
ソーシャルワークの専門職である社会福祉士に必要とされる知識を獲得するために、東北福祉大学通信教育部の規定に基づき、社会福祉士養成課程の指定科目の単位修得を目指す。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、指定科目の客観式レポート課題及び記述式レポート課題の作成を進める。必要に応じて、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。					
[授業の到達目標]					
・ 指定科目のレポート課題を期限までに作成、提出することができる。					
・ 個々の指定科目について、その科目を修得したと認められる事項を説明できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考查点(75%)					
・ 到達目標の修得状況を測るために、指定科目のレポート課題の状況について、ルーブリックによる期末考查を実施する。					
・ 平常点(25%)					
・ 大学のレポート課題を期限までに提出している。					
・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕4 社会福祉の原理と政策』中央法規出版、2021年					
・ 都築光一著『福祉ライブラリ 現代の地域福祉（第2版）』建帛社、2022年					
・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021年					
・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕6 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』中央法規出版、2021年					
・ 菅原好秀著『司法と福祉』建帛社、2023年					

- ・菅原好秀著『権利擁護と法』建帛社、2022年
- ・福祉臨床シリーズ編集委員会編（阿部裕二 / 熊沢由美責任編集）『社会保障（新・社会福祉士シリーズ12）』弘文堂、2023年
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規出版、2021年
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）』中央法規出版、2021年

〔備考〕

〔授業計画（内容）〕

コマ数	授業の内容
1～6	社会福祉原論B 客観式レポート作成指導
7～12	社会福祉原論B 記述式レポート作成指導
13～18	地域福祉と包括的支援体制A 客観式レポート作成指導
19～24	地域福祉と包括的支援体制A 記述式レポート作成指導
25～30	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 客観式レポート作成指導
31～36	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 記述式レポート作成指導
37～42	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 客観式レポート作成指導
43～48	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 記述式レポート作成指導
59～54	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ 客観式レポート作成指導
55～60	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ 記述式レポート作成指導
61～66	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ 客観式レポート作成指導
67～72	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ 記述式レポート作成指導
73～78	権利擁護を支える法制度 客観式レポート作成指導
79～84	権利擁護を支える法制度 記述式レポート作成指導
85～90	社会保障論Ⅰ 客観式レポート作成指導
91～96	社会保障論Ⅰ 記述式レポート作成指導
97～102	ソーシャルワーク演習Ⅰ 客観式レポート作成指導
103～108	ソーシャルワーク演習Ⅰ 記述式レポート作成指導
109～114	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 客観式レポート作成指導
115～120	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 記述式レポート作成指導

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
レポート指導（前期）		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 1年 前期 後期 通年			105回 210時間		
[担当教員および実務経験]					
星野和幸・渡辺康子・白倉啓子・櫛野友則・圓山里子					
[授業の目的]					
ソーシャルワークの専門職である社会福祉士に必要とされる知識を獲得するために、東北福祉大学通信教育部の規定に基づき、社会福祉士養成課程の指定科目の単位修得を目指す。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、指定科目の客観式レポート課題及び記述式レポート課題の作成を進める。必要に応じて、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。					
[授業の到達目標]					
・ 指定科目のレポート課題を期限までに作成、提出することができる。 ・ 個々の指定科目について、その科目を修得したと認められる事項を説明できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、指定科目のレポート課題の状況について、ルーブリックによる期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 大学のレポート課題を期限までに提出している。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕1 医学概論』中央法規出版、2021年 ・ 都築光一著『福祉ライブラリ 現代の地域福祉（第2版）』建帛社、2022年 ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新・社会福祉養成講座 5 保健医療と福祉』中央法規出版、2021年 ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕5 社会福祉調査の基礎』中央法規出版、2021年 ・ 杉本敏夫監修、小口将典編著『最新・はじめて学ぶ社会福祉12 福祉サービスの組織と経営』ミネルヴァ書房、2022年					

・福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ16 貧困に対する支援』弘文堂、2022年 ・菅原好秀著『司法と福祉』建帛社、2023年 ・菅原好秀著『権利擁護と法』建帛社、2022年 ・福祉臨床シリーズ編集委員会編（阿部裕二 / 熊沢由美責任編集）『社会保障（新・社会福祉士シリーズ12）』弘文堂、2023年
〔備考〕

〔授業計画（内容）〕	
コマ数	授業の内容
1～6	医学概論 客観式レポート作成指導
7～13	医学概論 記述式レポート作成指導
14～19	地域福祉と包括的支援体制 B 客観式レポート作成指導
20～26	地域福祉と包括的支援体制 B 記述式レポート作成指導
27～32	保健医療と福祉 客観式レポート作成指導
33～39	保健医療と福祉 記述式レポート作成指導
40～45	社会福祉調査の基礎 客観式レポート作成指導
46～52	社会福祉調査の基礎 記述式レポート作成指導
53～58	福祉サービスの組織と経営 客観式レポート作成指導
59～65	福祉サービスの組織と経営 記述式レポート作成指導
66～71	公的扶助論 客観式レポート作成指導
72～78	公的扶助論 記述式レポート作成指導
79～84	刑事司法と福祉 客観式レポート作成指導
85～91	刑事司法と福祉 記述式レポート作成指導
92～98	社会保障論Ⅱ 客観式レポート作成指導
99～105	社会保障論Ⅱ 記述式レポート作成指導

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
国家試験対策		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年			90回 180時間		
[担当教員および実務経験]					
星野 和幸、渡辺 康子、白倉 啓子、櫛野 友則、圓山 里子					
[授業の目的]					
社会福祉士国家試験の出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学ぶことで、基礎知識の定着を図ることを目的とする。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法で行い、内容の理解を促進する。また、過去問題を使用し、国家試験問題の出題傾向を分析する。その上で、重要項目リストを用いて、基礎知識の定着を図る。					
[授業の到達目標]					
・ 国家試験科目において、特に間違えてはいけない基礎問題を正解できる知識を身につけ、国家試験の合格を目指す。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。					
・ 考查点(75%)					
・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。					
・ 平常点(25%)					
・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ いう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2022』中央法規出版、2021年					
・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2024 [共通科目編]』中央法規出版、2023年					
・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2024』メディックメディア、2023年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
	社会福祉士国家試験の過去問を元に、基本事項を確認
1～4	共通科目 人体の構造と機能及び疾病 心理学理論と心理的支援 社会理論と社会システム 現代社会と福祉 地域福祉の理論と方法 福祉行政と福祉計画 社会保障 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 低所得者に対する支援と生活保護制度 保健医療サービス 権利擁護と成年後見制度
5～8	
9～12	
13～16	
17～20	
21～24	
25～28	
29～32	
33～36	
37～40	
41～44	
45～48	
49～52	
53～68	
69～72	
73～76	
77～80	
81～84	
85～88	
89	専門科目 社会調査の基礎
	相談援助の基盤と専門職
	相談援助の理論と方法
	福祉サービスの組織と経営
	高齢者に対する支援と介護保険制度
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
	就労支援サービス
	更生保護制度
89	期末試験（直近の過去問：共通科目）
90	期末試験（直近の過去問：専門科目）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択
PBL実習		実習		
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2 年 前期 後期 通年			3 2 回 6 4 時間	
[担当教員および実務経験]				
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)				
和久井 久光 (高齢者施設で介護・相談業務、高齢者相談支援事業所で相談支援・地域支援業務に従事)				
[授業の目的]				
1. 地域や施設の現状や課題を知り、その課題について学生自らが主体的に取り組む力を育む。				
2. チーム活動を通じて、協調性とリーダーシップの重要性を学び、リーダーとなれる人材に成長する。				
3. 講義では学ぶことのできない社会の現状や課題を知り、現状への問題意識や批判的な視点を身に付け、社会性を確立する。				
[授業の方法および概要]				
1. チーム活動を円滑に実施するために、ファシリテーションについて学ぶ。				
2. 地域住民や施設職員の思いに共感し、それぞれの現状と課題の聴き取りを行う。				
3. 現状のアセスメントや良質な話し合いを通じて行動計画を学生主体で作成する。				
4. アクションプランを当事者の方々と共有し、可能な限り協働で実施し、課題解決に向かう体験をする。				
5. 実施後の振り返りを通して効果測定を行う。合わせて、他チームとも共有する。				
[授業の到達目標]				
1. ファシリテーションの概要を説明できる。				
2. 関係する人たちの状況や思いを的確に聴き取ることができる。				
3. 聴き取った内容を整理し、課題解決に向かう方向性について話し合える。				
4. 関係する人たちと協力して活動することができる。				
5. 活動の結果を振り返り、まとめることができる。				
[成績評価の方法と基準]				
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。				
・ 考查点 (75%)				
・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累計考查を実施する。				
・ 平常点 (25%)				
・ 指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。				

・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
[使用テキスト・参考文献]
[備考]
・実習スケジュールは、チームにより異なる可能性あり。

[授業計画(内容)]	
1～2	オリエンテーション（授業の目的、自己探求、チーム編成・課題の選定、ファシリテーション体験）
3～4	実習先とのマッチング（担当者からの聴き取り、取り組み課題を確定）
5～6	課題解決案・行動目標作成
7～8	行動計画共有ミーティング（実習内容を確定）
9～12	ワクワク地域実習①（行動計画の実施①）
13～16	ワクワク地域実習②（行動計画の実施②）
17～18	中間振り返り（①②の内容の振り返り、意見交換、計画修正など）
19～22	ワクワク地域実習③（行動計画の実施③）
23～26	ワクワク地域実習④（行動計画の実施④）
27～30	ワクワク地域実習⑤（行動計画の実施⑤）
31～32	実習振り返り・全体発表

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
医学一般		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 2年 前期			15回 30時間		
[担当教員および実務経験]					
渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務					
[授業の目的]					
社会福祉の仕事を行うにあたって必要とされる医療の基礎的な知識を概括的に学ぶ。具体的には、基本的な人体の構造と機能を理解し、直面する頻度の高い障害や疾病について医学的に理解する。					
[授業の方法および概要]					
授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
・人体の主な器官の生理的機能について説明できる。 ・加齢に伴う生理的機能の低下と、高齢者に多い疾患（慢性腎臓病、高血圧、誤嚥性肺炎など）との関連について説明できる。 ・免疫（特に液性免疫）や自律神経による身体の機能調節について説明できる。 ・脳の機能と関連させて考え、認知症の中核症状と主な原因疾患について説明できる。 ・生活習慣病および、生活習慣との関連について説明できる。 ・主な生活習慣病について説明できる。 ・生活習慣病をメタボリック症候群や日本人の死因と関連させて説明できる。 ・介護保険の特定疾病について説明できる。 ・高齢者に多い神経疾患と精神疾患の特徴を説明できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。					
・考查点(75%) ・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・平常点(25%) ・事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版、2015年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	人の成長・発達①
2	人の成長・発達②

3	心身機能と身体構造の概要①
4	心身機能と身体構造の概要②
5	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要①
6	健康の捉え方①
7	健康の捉え方②
8	疾病と障害の概要①
9	疾病と障害の概要②
10	疾病と障害の概要③
11	疾病と障害の概要④
12	疾病と障害の概要⑤
13	リハビリテーションの概要①
14	リハビリテーションの概要②
15	期末試験

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
保健医療サービス論		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 2 年 前期 後期 通年			1 5 回 3 0 時間 (1 コマ 90 分)		
[担当教員および実務経験]					
櫛野 友則					
[授業の目的]					
わが国の保健医療サービスの提供体制を学ぶとともに、医療分野における相談援助業務に対応できる制度的知識を学ぶ。					
[授業の方法および概要]					
社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の共通科目として、医療ソーシャルワーカーとして必要な保健医療サービスの知識を体系的に身につけるような授業内容とする。					
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を進める。必要に応じてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて内容の理解を深めるとともに、随時問題練習を行い到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
・ 公的医療保険制度のしくみと給付について説明できる。 ・ 保健医療サービスの変化と保健医療機関の種類について説明できる。 ・ 保健医療サービスの専門職について説明できる。 ・ 医療ソーシャルワーカーの役割及び業務内容について説明できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が 8 0 % 以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考查点 (1 5 0 点) 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により考查を実施する。 ・ 平常点 (5 0 点) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 17 保健医療サービス』中央法規出版、2017					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	保健医療サービスの提供と経済的保障①
2	保険医療サービスの提供と経済的保障②
3	保険医療サービスの提供と経済的保障③
4	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割①
5	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割②
6	保健医療サービスの専門職の役割①
7	保健医療サービスの専門職の役割②
8	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割
9	保健医療サービスを提供する施設とシステム①
10	保健医療サービスを提供する施設とシステム②
11	保健医療サービスを提供する施設とシステム③
12	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践
13	保健医療サービスにおける地域の資源との連携と実践
14	総合復習
15	期末考査

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]		必修 選択
社会保障論		講義		
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2 年 前期 後期 通年			1 5 回 3 0 時間 (1 コマ 90 分)	
[担当教員および実務経験]				
櫛野 友則				
[授業の目的]				
わが国の社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて学ぶとともに、公的保険制度のうち年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険の概要について学ぶ。				
[授業の方法および概要]				
社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の共通科目として、ソーシャルワーク専門職に必要な制度の知識を体系的に身につけるような授業内容とする。				
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を進める。必要に応じてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて内容の理解を深めるとともに、随時問題練習を行い到達目標の修得度を測定する。				
[授業の到達目標]				
・ 社会保障の概念や対象及びその理念について説明できる。				
・ 社会保障の財源と社会保障給付費について説明できる。				
・ 社会手当について説明できる。				
・ 社会保険と民間保険の違いについて説明できる。				
・ 社会保険制度（年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険、介護保険）の概要について説明できる。				
・ 諸外国の社会保障制度について説明できる。				
[成績評価の方法と基準]				
教科出席率が 8 0 % 以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。				
・ 考查点（1 5 0 点）				
到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により考查を実施する。				
・ 平常点（5 0 点）				
授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。				
[使用テキスト・参考文献]				
・ 福祉臨床シリーズ編集委員会編『社会福祉シリーズ 12 社会保障』弘文堂				
[備考]				
・ 社会保険制度のうち、医療保険（わが国の医療保険制度の現状と課題）の内容は、保健医療サービス「保健医療サービスの提供と経済的保障」の授業に委ねるものとする。				

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	社会保障とは何か―その考え方と構造―①
2	社会保障とは何か―その考え方と構造―②
3	社会保障の方法と財源構成
4	わが国の年金保険制度の現状と課題①
5	わが国の年金保険制度の現状と課題②

6	わが国の年金保険制度の現状と課題③
7	わが国の労働保険制度の現状と課題—雇用保険のしくみ—
8	わが国の労働保険制度の現状と課題—労災保険のしくみ—
9	わが国の社会保険と民間保険の違い
10	わが国の介護保険制度の現状と課題
11	わが国の社会手当の現状と課題
12	現代社会における社会保障の現状と課題
13	諸外国における社会保障制度
14	総合復習
15	期末考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
公的扶助論		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 1 年 2 年 前期 後期 通年			1 4 回 2 8 時間		
[担当教員および実務経験]					
圓山 里子					
[授業の目的]					
わたしたちの生活を保障する最後のセーフティネットである公的扶助に関して、現代社会の貧困の様相とそれに対する生活保護制度、低所得者対策としての生活困窮者支援制度、生活福祉資金貸付制度について学ぶ。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
1. 貧困概念の歴史的変遷過程を通して貧困概念を覚える。					
2. 公的扶助の位置づけを社会保険との対比によって理解する。					
3. 生活保護制度の目的、基本原理・原則、そして権利と義務等について説明できる。					
4. 生活困窮者自立支援制度の目的を説明し、各事業の内容を覚える。					
5. 生活福祉資金貸付制度の目的を説明し、各貸付資金の内容を覚える。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考査点 (75%)					
・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。					
・ 平常点 (25%)					
・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。					
・ 前回の授業内容の確認テストによって、知識の定着に取り組んでいる。					
・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
福祉臨床シリーズ編集委員会編、伊藤秀一責任編集『新・社会福祉士シリーズ16 貧困に対する支援』弘文堂、2022年					
[備考]					
なし					

[授業計画(内容)]	
1	貧困概念の変遷と公的扶助の役割
2	貧困の状態にある人の生活実態と社会環境、生活保護の動向
3	貧困の歴史①
4	貧困の歴史②
5	生活保護制度①：原理・原則
6	生活保護制度②：保護の種類と範囲、基準生活費
7	生活保護制度③：扶助の種類とその内容
8	生活保護制度④：保護施設の種類とその内容
9	生活保護制度⑤：権利、義務
10	生活保護制度⑥：保護の実施体制と専門職の役割、財政
11	低所得者対策①：生活困窮者自立支援法
12	低所得者対策②：生活福祉資金貸付制度など
13	まとめ
14	考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 社会福祉援助技術演習 C		[授業形態] 講義・演習		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年			[授業回数・時間数] 1 2 回 2 4 時間		
[担当教員および実務経験] 圓山 里子 障害当事者が代表及び事務局長を務めるNPO法人や障害者サポートの市委託事業においてスタッフとして勤務。					
[授業の目的] テーマや課題に焦点をあてた総合的な学習を通して、科目別に学習する事柄の関連性について気づき、総合的・包括的に理解できるようにする。					
[授業の方法および概要] ・ 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 ・ 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した事例検討や実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。					
[授業の到達目標] ・ ソーシャルワークの価値に基づいて、実践で何を目指すべきかを述べることができる。 ・ ソーシャルワークの基本的な視点と知識に基づいてクライアントの状況を多面的に理解し、他者がわかるように説明することができる。 ・ これまで学んできたソーシャルワーク技法や実践アプローチを、アセスメントを中心に統合して活用することができる。					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献] ・ 長谷川匡俊・上野谷加代子・白澤政和・中谷陽明編『社会福祉士 相談援助演習（第2版）』中央法規出版、2015年 (参考文献) ・ 伊藤健次・土屋幸己・竹端寛『「困難事例」を解きほぐす—多職種・多機関の連携に向けた全方位型アセスメント』現代書館、2021年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	ソーシャルワークの開発機能
2	アセスメントと生き方支援
3	アセスメントの機能とアセスメントにおけるストレングス把握
4	全方位型アセスメント・全方位型支援の構成要素
5	実習先に関わる法律上の権利擁護、権利擁護事業、権利擁護機関
6	利用者の日常生活上の権利擁護
7	権利擁護の重要性のまとめ
8	全方位型アセスメントの実際・事例
9	全方位型アセスメントの実際に有用なツール
10	事例検討の方法
11	まとめ：実習前課題の整理①
12	まとめ：実習前課題の整理②

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
社会福祉援助技術実習指導B		講義・演習			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年			16回 32時間		
[担当教員および実務経験]					
星野 和幸					
[授業の目的]					
相談援助実習の意義について理解を深め、実際に実習を行う分野に関する知識を深化させるとともに、実習中の具体的な目標・自己の課題等を明確化し、意義ある実習にすることを目的とする。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法で行い、内容の理解を促進する。					
[授業の到達目標]					
・実習先へ事前訪問学習を行い、実習計画書を作成できる。 ・実習の位置づけ、社会福祉士の役割、実習中・実習後の学習内容、スーパービジョンのあり方を、それぞれ説明できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 実習計画案また実習計画書書の内容を評価する。 ①表現や文字が正確であること ②職場実習、職種実習、ソーシャルワーク実習の位置づけの理解していること ③具体的な実習目標、方法の設定をしていること ・ 平常点(25%) ・ 大学指定の課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・『社会福祉援助技術実習の手引き（第1分冊）』東北福祉大学、2022年 ・『社会福祉援助技術実習の手引き（第2分冊）』東北福祉大学、2022年 ・『社会福祉援助技術実習 課題ノート』東北福祉大学、2022年 ・長谷川匡俊・上野谷加代子・白澤政和・中谷陽明編『社会福祉士 相談援助実習（第2版）』中央法規出版、2014年					
[備考]					

--

[授業計画(内容)]

1	実習指導B－1 スクーリング提出物の確認 課題ノートp. 28～37の内容確認・提出準備 実習計画案の作成について
2	第1章 相談援助実習の位置づけ
3	第2章 相談援助実習ガイドライン
4	第3章 ソーシャルワーカーとしての社会福祉士
5	第4章 実習の場と形態
6	第5章 契約関係のなかにある実習
7	第6章 実習スーパービジョンの理解
8	第7章 実習機関・施設、地域の理解
9	第8章 実習機関・施設、地域の利用者理解と援助方法
10	第9章 相談援助実習の仕組み
11	第10章 相談援助実習における学習
12	第11章 実習記録
13	第12章 実習スーパービジョン、訪問指導
14	第13章 実習後の学習課題と全体総括
15	第14章 実習の評価
16	第15章 求められる社会福祉士を目指して

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：人体の構造と機能及び疾病）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		9回 18時間	
[担当教員および実務経験]			
渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「人体の構造と機能及び疾病」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・身体の成長・発達について理解できる。 ・加齢に伴う生理機能の変化について理解できる。 ・人体の構造と各器官の機能（血液・呼吸器・消化器・循環器・支持運動器官）について理解できる。 ・ICIDHからICFへの変遷について理解できる。 ・ICFにおける心身機能と身体構造、活動、参加の概念を説明できる。 ・ICFにおける環境因子と個人因子の概念を説明できる。 ・WHOの健康の概念について説明できる。 ・アルマ・アタ宣言について説明できる。 ・オタワ憲章について説明できる。 ・疾病の概要（生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧、糖尿病、呼吸器疾患、消化器・消化管疾患、腎臓疾患、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、感染症、神経疾患、先天性疾患）について理解できる。 ・高齢者に多い疾患の特徴について説明できる。 ・障害（視覚・聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害、高次機能障害）の特徴について理解できる。 ・認知症類型について説明できる。 ・精神障害（統合失調症、気分障害、摂食障害）の特徴について理解できる。 ・ICD－10とDSM－5の違いと特徴を説明できる。 ・リハビリテーションの定義を説明でき、範囲を理解できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・査点(75%) ・到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・平常点(25%) ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精			

神保健福祉士国家試験受験ワークブック 2023 [共通科目編]』中央法規出版、2022 年
・医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説 2023』
メディックメディア、2022 年

[備考]

[授業計画(内容)]

1	人の成長・発達
2	人体の構造と各器官の機能① (支持運動器官、血液、循環器系器官、泌尿器、呼吸器)
3	人体の構造と各器官の機能② (消化器、神経器官、内分泌器官、感覚器、皮膚)
4	国際生活機能分類 (I C F) と健康の概念
5	疾病の概要① (生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧、糖尿病)
6	疾病の概要② (内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器・消化管疾患、血液疾患と膠原病、 腎臓疾患、泌尿器系疾患、骨・関節疾患)
7	疾病の概要③ (目・耳の疾患、感染症、神経疾患と難病)
8	疾病の概要④ (先天性疾患、高齢者に多い疾患) 障害の概要① (視覚・聴覚障害、高次脳機能障害、内部障害、知的障害、発達障害、認知症 類型)
9	障害の概要② (精神障害) 精神疾患の診断・統計マニュアル (D S M) の概要 リハビリテーションの概要

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：心理学理論と心理的支援）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		15回 30時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「心理学理論と心理的支援」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・感情、欲求、動機づけについて説明できる。 ・適応と不適応の違いを説明できる。 ・防衛機制を12種類列挙できる。 ・ストレスについて説明できる。 ・人格検査を3種類列挙し、それぞれ具体例を挙げて説明できる。 ・知能検査を2種類列挙し、それぞれ説明できる。 ・発達検査、適性検査について説明できる。 ・心理療法（精神分析、行動療法、遊戯療法、芸術療法、動作法、ブリーフセラピー、家族療法、心理劇、回想法、森田療法、内観療法、自律訓練法、漸進的筋弛緩法、セラピューティック・アクティビティ）について説明できる。 ・エリクソンとピアジェの発達段階・発達課題について説明できる。 ・記憶の6種類、感覚の7種類を列挙し、高齢者の記憶と感覚の特徴を説明できる。 ・人格・性格・気質の違いを説明できる。 ・知覚・感覚・認知の違いを説明できる。 ・集団（凝集性、規範、極性化、思考）について説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・考査点(75%)			

・到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・平常点(25%) ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
[使用テキスト・参考文献] ・社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2024〔共通科目編〕』中央法規出版、2023年 ・医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2024』メディックメディア、2023年
[備考]

[授業計画(内容)]	
1	情緒、情動、欲求、動機づけ
2	適応、ストレス
3	心理検査、知能検査
4	カウンセリング、心理療法①
5	心理療法②
6	発達概念
7	高齢者の発達心理、感覚、記憶、思考
8	人格、性格
9	知覚、認知、学習
10	心と脳、集団、人と環境
11	問題演習（過去問題①）
12	問題演習（過去問題②）
13	問題演習（模擬問題①）
14	問題演習（模擬問題②）
15	まとめ（直前対策）

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	必修 選択
社会福祉士国家試験対策（共通科目：社会理論と社会システム）		講義	
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		15回 30時間	
[担当教員および実務経験]			
櫛野 友則			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「社会理論と社会システム」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・現代社会のしくみを説明できる ・人々の生活について説明できる ・人と社会の関係について説明できる ・社会問題を列挙し、それを説明することができる			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に 1 度ずつ、全科目共通の筆記試験を 4 回実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック 2024 [共通科目編]』中央法規出版、2023 年			
[備考]			

【授業計画(内容)】	
1	・ 家族と生活様式
2	・ 都市化と過疎化およびコミュニティ①
3	・ 都市化と過疎化およびコミュニティ②
4	・ 国勢調査、国民生活基本調査
5	・ 人口と社会変動
6	・ 法と権力のシステム
7	・ 社会的行為
8	・ 社会的役割

9	・社会集団、近代組織
10	・社会的ジレンマ
11	・社会関係資本
12	・社会病理と逸脱①
13	・社会病理と逸脱②
14	・総合演習①
15	・総合演習②

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：現代社会と福祉）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		15回 30時間	
[担当教員および実務経験]			
圓山 里子			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「現代社会と福祉」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・福祉制度・福祉政策の概念と理念を理解できる。 ・福祉の原理をめぐる理論及び哲学と倫理について説明できる。（研究者とその理論） ・明治・大正・昭和戦前期の福祉の発達過程の流れについて説明できる。 ・昭和戦後期および高度経済成長期以降の福祉の発達過程の流れについて説明できる。 ・平成期の福祉の発達過程の流れについて説明できる。 ・諸外国（イギリス・アメリカ）の福祉の発展過程の流れについて説明できる。 ・福祉政策におけるニーズと資源の概念について説明できる。 ・福祉政策の課題について理解できる。 ・福祉政策の国際動向について理解できる。 ・福祉政策の構成要素について理解できる。 ・福祉政策とその関連政策について理解できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。 ・考查点(75%) ・到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・平常点(25%) ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			

・社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2024 [共通科目編]』中央法規出版、2023年 ・医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2024』メディックメディア、2023年
[備考]

[授業計画(内容)]	
1	福祉制度の概念と理念
2	福祉政策の概念と理念（社会政策・福祉政策・社会福祉政策）
3	福祉の原理をめぐる理論（社会福祉の代表的な対象論）
4	福祉の原理をめぐる哲学と倫理
5	日本の福祉制度の発展過程①
6	日本の福祉制度の発展過程②
7	諸外国の福祉制度の発展過程
8	社会政策の国際比較
9	福祉政策におけるニーズと資源
10	福祉政策の課題
11	問題演習（過去問題①）
12	問題演習（過去問題②）
13	問題演習（模擬問題①）
14	問題演習（模擬問題②）
15	まとめ（直前対策）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：地域福祉の理論と方法）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		15回 30時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「地域福祉の理論と方法」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 地域福祉とは何かを説明できる。 ・ 地域福祉論の重要人物（岡村重夫、右田紀久恵、三浦文夫、永田幹夫、牧里毎治、岡本栄一）について説明できる。 ・ ノーマライゼーションとソーシャル・インクルージョン、コミュニティ・オーガニゼーション、地域福祉の役割について説明できる。 ・ 日本、イギリス、アメリカの地域福祉政策の主な展開を説明できる。 ・ 地域福祉計画と地域福祉活動計画の違いを説明できる。 ・ 社会福祉協議会の概要を説明できる。 ・ 社会福祉法人について説明できる。 ・ 共同募金の概要を説明できる。 ・ ボランティアセンターと災害ボランティアセンターについて説明できる。 ・ 民生委員制度の概要を説明できる。 ・ 地域ネットワーク、ソーシャルサポートネットワークについて説明できる。 ・ 社会資源について説明できる。 ・ 福祉ニーズの把握方法を列挙できる。 ・ 地域包括ケアシステムについて説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			

・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
[使用テキスト・参考文献] ・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2024 [共通科目編]』中央法規出版、2023年 ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2024』メディックメディア、2023年
[備考]

[授業計画(内容)]	
1	地域福祉の概念
2	地域福祉の範囲
3	地域福祉の理念、地域福祉の発展過程①
4	地域福祉の発展過程②、地域福祉の主体
5	地方自治体、地域福祉計画
6	社会福祉協議会
7	社会福祉法人、NPO法人、住民参加型在宅福祉サービス
8	企業・ビジネス等、共同募金
9	民生委員・児童委員
10	専門職や地域住民の役割と実際、地域福祉の推進方法①
11	地域福祉の推進方法②、ボランティア活動・組織
12	問題演習（過去問題①）
13	問題演習（過去問題②）
14	問題演習（模擬問題①）
15	問題演習（模擬問題②）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：福祉行財政と福祉計画）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		8回 16時間	
[担当教員および実務経験]			
星野 和幸			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「福祉行財政と福祉計画」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 社会福祉の法体系を説明できる ・ 福祉行政の実施体制を説明できる ・ 国と地方の主な歳入・歳出を説明できる ・ 福祉行政の主な機関と専門職を説明できる ・ 福祉計画の目的と意義を説明できる ・ 福祉計画策定の過程を説明できる ・ 福祉計画におけるニーズ把握を説明できる ・ 福祉計画における住民参加を説明できる			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精			

神保健福祉士国家試験受験ワークブック2024〔共通科目編〕』中央法規出版、2023年 ・医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2024』メ ディックメディア、2023年
[備考]

[授業計画(内容)]	
1	福祉行政の実施体制① 国の役割、都道府県の役割、市町村の役割、国と地方の関係
2	福祉行政の実施体制② 福祉の財源
3	福祉行政の実施体制③・福祉行財政の動向 福祉行政の組織及び団体の役割、福祉行政における専門職の役割、 福祉行財政の動向
4	福祉計画の意義と目的 福祉計画の意義と目的、福祉計画における住民参加の意義、福祉計画の主体、 福祉行財政と福祉計画の関係
5	福祉計画の主体と方法 福祉計画の策定過程、福祉計画の策定方法と留意点、福祉計画の評価方法
6	福祉計画の実際 老人福祉計画、介護保険事業計画、障害者計画、障害福祉計画、 障害児福祉計画、子ども・子育て支援事業計画、地域福祉計画
7	授業内容のまとめ①
8	授業内容のまとめ②

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	必修 選択
社会福祉士国家試験対策（共通科目：社会保障）		講義	
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		15回 30時間	
[担当教員および実務経験]			
櫛野 友則			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「社会保障」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
授業時には、到達目標に沿ってテキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・我が国の人口動態や社会情勢を踏まえ、社会保障の理念と機能を説明できる。 ・欧米及び日本における社会保障の歴史的展開を説明できる ・社会保険と社会扶助の違いを説明できる。 ・社会保障の財源と費用について説明できる。 ・各公的社会保険制度の具体的内容を説明できる。 ・諸外国における社会保障制度のしくみを説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考査点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に 1 度ずつ、全科目共通の筆記試験を 4 回実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック 2024 [共通科目編]』中央法規出版、2023 年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
1	社会保障制度の課題、社会保障の概念や対象及びその理念
2	社会保障制度の歴史的展開
3	社会保障の財源と費用、社会保険と社会扶助の関係
4	公的保険制度と民間保険制度の関係
5	労働者災害補償保険制度の概要
6	雇用保険制度及び家族手当制度の概要
7	国民年金の具体的内容①
8	国民年金の具体的内容②
9	厚生年金保険の具体的内容

10	国民健康保険制度の具体的内容
11	健康保険及び後期高齢者医療制度の具体的内容
12	介護保険の財源
13	先進国における社会保障制度の概要
14	総合演習①
15	総合演習②

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：障害者に対する支援と障害者自立支援制度）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		18回 36時間	
[担当教員および実務経験]			
圓山 里子 障害当事者団体（NPO法人）にて職場介助者及び事務局スタッフとして勤務。障害者サポートの市委託事業において事業開設スタッフとして勤務。四年制大学の社会福祉士養成コースにおいて専任教員として勤務。			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 障害者の生活実態の傾向を説明できる。 ・ 障害者福祉制度の発展過程を説明できる。 ・ 障害者福祉関連法律（障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、児童福祉法、障害者虐待防止法、医療観察法、バリアフリー新法、障害者雇用促進法）の概要を説明できる。 ・ 障害者総合支援法の概要（目的、対象、サービス利用の仕組みとプロセス、自立支援給付、地域生活支援事業等）を説明できる。 ・ 障害者総合支援法におけるそれぞれの組織及び団体の役割を説明できる。 ・ 障害者総合支援法におけるそれぞれの専門職の役割を説明できる。 ・ 障害者総合支援法における多職種連携（関連職種の理解）やネットワーキングの手法を説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
【使用テキスト・参考文献】 ・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2024 [共通科目編]』中央法規出版、2023年 ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2024』メディアックメディア、2023年
【備考】

【授業計画(内容)】	
1	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要
2	障害者福祉制度の発展過程
3	障害者基本法の概要
4	身体障害者福祉法の概要、知的障害者福祉法の概要
5	精神保健福祉法の概要、児童福祉法の概要
6	障害者虐待防止法の概要、医療観察法の概要
7	バリアフリー新法の概要、障害者雇用促進法の概要
8	障害者総合支援法の概要①（目的・対象・仕組みとプロセス）
9	障害者総合支援法の概要②（障害福祉サービス：介護給付）
10	障害者総合支援法の概要③（障害福祉サービス：訓練等給付）
11	障害者総合支援法の概要④（自立支援医療・補装具・住宅改修）
12	障害者総合支援法の概要⑤（地域生活支援事業・相談支援事業所）
13	障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際
14	障害者総合支援法における専門職の役割と実際
15	障害者総合支援法における多職種連携、ネットワーキングと実際
16	問題演習（過去問題①）
17	問題演習（過去問題②）
18	問題演習（模擬問題）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
社会福祉士国家試験対策 (共通科目:低所得者に対する支援と生活保護制度)		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年			10回 20時間		
[担当教員および実務経験]					
圓山 里子					
[授業の目的]					
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「低所得者に対する支援と生活保護制度」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
本試験の正答率6割を目指して					
1. 生活保護制度に関して頻出する事項（原理原則、自立支援プログラム）を覚える。					
2. 生活保護の動向に関して、主要な統計数値（世帯類型別被保護世帯数など）を覚える。					
3. 保護の実施機関（福祉事務所）の役割について重要事項を覚える。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。					
・ 考查点(75%)					
・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。					
・ 平常点(25%)					
・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2024 [共通科目編]』中央法規出版、2023年					
・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2024』メ					

ディックメディア、2023年
[備考]

[授業計画(内容)]	
1	法改正①（2015年法改正の概要）
2	法改正②（2018年法改正の概要）
3	生活困窮者自立支援法（法の位置づけと各事業内容）
4	生活福祉資金貸付制度（貸付のしくみと各貸付資金）
5	統計問題／現在の動向（被保護世帯数などの数値の把握）
6	制度の発展過程（恤救規則から新生活保護法までの発展過程）
7	生活保護法①（原理原則、8 扶助）
8	生活保護法②（権利義務・保護施設）
9	生活保護法③（保護の実施機関の役割）
10	生活保護法④（申請手続・審査請求）

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：保健医療サービス）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		6回 12時間	
[担当教員および実務経験]			
渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「保健医療サービス」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・診療報酬制度の全体像について理解できる。 ・点数表と薬価基準の仕組みを理解できる。 ・在宅医療、終末期医療を支援する診療報酬制度について理解できる。 ・医療提供施設の定義について説明できる。 ・保健医療対策の概要について理解できる。 ・医療システムの概要（インフォームドコンセント、アカウントビリティ、セカンドオピニオン、地域連携クリティカルパス）について説明できる。 ・医師の役割について説明できる。 ・保健師、看護師等の役割について説明できる。 ・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・救急救命士等の役割について説明できる。 ・医療ソーシャルワーカーの役割について理解できる。 ・医療ソーシャルワーカーの業務について説明できる。 ・保健医療サービス関係者及び地域の社会資源との連携について理解できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・ 査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点(10%) 授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。 ・ 出欠点(15%) 欠席する毎に点数を引いていく。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2023 [共通科目編]』中央法規出版、2022年 ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2023』メディックメディア、2022年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
1	診療報酬制度の概要
2	保健医療サービスの概要①（医療施設の概要）
3	保健医療サービスの概要②（保健医療対策の概要・医療システムの概要）
4	保健医療サービスにおける専門職の役割と実際① （医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、救急救命士等の役割）
5	保健医療サービスにおける専門職の役割と実際② （医療ソーシャルワーカーの役割）
6	保健医療サービス関係者との連携と実際

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：権利擁護と成年後見制度）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		10回 20時間	
[担当教員および実務経験]			
星野 和幸 (専門職後見人として成年後見を受任)			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「権利擁護と成年後見制度」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 権利擁護に関わる法律問題を説明できる ・ 日本国憲法に規定された基本的人権（特に自由権と社会権）の概要を説明できる ・ 民法に規定された物権、相続、家族について説明できる ・ 行政法による権利の救済を説明できる ・ 成年後見制度の概要を説明できる ・ 任意後見制度の概要を説明できる ・ 日常生活自立支援事業及び成年後見制度利用援助事業の概要を説明できる ・ 権利擁護に係る組織、団体の役割を説明できる ・ 認知症者や被虐待者に対する権利擁護活動の実際を説明できる			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			

[使用テキスト・参考文献]

- ・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2024 [共通科目編]』中央法規出版、2023年
- ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク 社会福祉士国家試験問題解説2024』メディックメディア、2023年

[備考]

[授業計画(内容)]

1	相談援助活動と法との関わり① 権利擁護に関わる法律問題、日本国憲法の理解
2	相談援助活動と法との関わり② 民法の理解
3	相談援助活動と法との関わり③ 行政法の理解
4	成年後見制度① 成年後見制度の概要、成年後見人等の役割
5	成年後見制度② 任意後見制度、民法における親権や扶養の概要、最近の動向
6	日常生活自立支援事業、成年後見制度利用援助事業 日常生活自立支援事業、成年後見制度利用援助事業
7	権利擁護に係る組織、団体の役割 家庭裁判所、法務局、市町村、弁護士、司法書士、医師、公証人
8	権利擁護活動の実際 認知症者、被虐待者
9	授業内容のまとめ①
10	授業内容のまとめ②

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	必修 選択
社会福祉士国家試験対策（専門科目：社会調査の基礎）		講義	
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		8回 16時間	
[担当教員および実務経験]			
櫛野 友則			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「社会調査の基礎」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
授業時には、到達目標に沿ってテキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・社会調査の種類及び対象について説明できる。 ・統計法の概要及び主たる基幹統計について説明できる。 ・社会調査における倫理的配慮及び個人情報保護について説明できる。 ・量的調査の種類と方法について説明できる。 ・質的調査の種類と方法について説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・考查点(75%) ・到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・平常点(25%) ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・社会福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士国家試験受験ワークブック 2024 [専門科目編]』中央法規出版、2023年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
1	社会調査の種類と対象
2	統計法
3	社会調査における倫理的配慮及び個人情報保護
4	量的調査の種類
5	量的調査の方法
6	質的調査の種類
7	質的調査の方法
8	総合演習

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	必修 選択
社会福祉士国家試験対策（専門科目：相談援助の基盤と専門職）		講義	
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		7回 14時間	
[担当教員および実務経験]			
櫛野 友則			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「相談援助の基盤と専門職」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
授業時には、到達目標に沿ってテキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・社会福祉士に関する法令を踏まえ、その義務と役割について説明できる。 ・ソーシャルワークに係る各種の定義や原理を説明することができる。 ・ソーシャルワークの形成過程について説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に 1 度ずつ、全科目共通の筆記試験を 4 回実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 社会福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士国家試験受験ワークブック 2024 [専門科目編]』中央法規出版、2023 年			
[備考]			

【授業計画(内容)】	
1	法に規定されている社会福祉士の義務
2	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、ソーシャルワークのグローバル定義
3	ソーシャルワークの形成過程
4	相談援助の理念と権利擁護の意義
5	相談援助に係る専門職の概念と範囲
6	専門職倫理と倫理的ジレンマ
7	総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（専門科目：相談援助の理論と方法—知識）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		15回 30時間	
[担当教員および実務経験]			
圓山 里子			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「相談援助の理論と方法」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・システム理論について説明できる。 ・ソーシャルワークの3つの実践モデルを説明できる。 ・ソーシャルワークの主要な6つのアプローチを列挙し、それぞれ概要を説明できる。 ・相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、アフターケア）を説明できる。 ・援助関係の意義と概念、形成方法について説明できる。 ・相談援助の面接技術を列挙できる。 ・ケースマネジメントとケアマネジメントの概要を説明できる。 ・社会資源の活用・調整・開発について説明できる。 ・ネットワークングの手法を説明できる。 ・グループワークの基本原理・原則を説明できる。 ・スーパービジョンの3つの機能を列挙し、それぞれの違いを説明できる。 ・個人情報保護法の概要を説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・考查点(75%) ・到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・平常点(25%) ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2024 [共通科目編]』中央法規出版、2023年 ・医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説 2024』メディックメディア、2023年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
1	人と環境の交互作用
2	相談援助の対象
3	様々な実践モデルとアプローチ①
4	様々な実践モデルとアプローチ②
5	相談援助の過程①（インテーク、アセスメント、プランニング）
6	相談援助の過程②（支援の実施、モニタリング、効果測定、アフターケア）
7	相談援助における援助関係、相談援助のための面接技術
8	ケースマネジメントとケアマネジメント
9	相談援助における社会資源の活用・調整・開発
10	アウトリーチ、ネットワーキング
11	集団を活用した相談援助
12	スーパービジョン、記録
13	相談援助と個人情報の保護の意義と留意点
14	相談援助における情報通信技術（IT）の活用
15	総合演習

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（専門科目：相談援助の理論と方法―事例）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		15回 30時間	
[担当教員および実務経験]			
圓山 里子			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「相談援助の理論と方法」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある事例問題について、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、主としてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、事例内容の理解を深める。その上で確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 事例問題の解き方のポイントを列挙できる。 ・ 解き方のポイントを押さえ、事例問題に解答できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2024 [共通科目編]』中央法規出版、2023年 ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2024』メディックメディア、2023年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
1	事例問題を解く上での理論
2	個別援助技術①
3	個別援助技術②
4	個別援助技術③
5	個別援助技術③
6	他職種連携／地域福祉①
7	他職種連携／地域福祉②
8	他職種連携／地域福祉③
9	集団援助技術①
10	集団援助技術②
11	知識を問うもの①
12	知識を問うもの②
13	知識を問うもの③
14～15	複合問題

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（専門科目：福祉サービスの組織と経営）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		7回 14時間	
[担当教員および実務経験]			
星野 和幸			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「福祉サービスの組織と経営」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・福祉サービスの特質を説明できる ・社会福祉法人とNPO法人の概要を説明できる ・社会福祉法人の組織と経営を説明できる ・集団の力学を説明できる ・リーダーシップを説明できる ・組織体制と管理を説明できる ・組織の人材養成と確保を説明できる ・組織の会計、財務管理を説明できる ・適切なサービス提供体制の確保を説明できる ・働きやすい労働環境の整備を説明できる			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・ 考査点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			

〔使用テキスト・参考文献〕

- ・ 社会福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士国家試験受験ワークブック2024〔専門科目編〕』中央法規出版、2023年
- ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2024』メディックメディア、2023年

〔備考〕

〔授業計画(内容)〕

1	福祉サービスに係る組織や団体（講義、形成的評価） 社会福祉法人制度、特定非営利活動法人制度、その他の組織や団体
2	福祉サービスの組織と経営に関する基礎理論①（講義、形成的評価） 組織に関する基礎理論、経営に関する基礎理論、管理運営に関する基礎理論
3	福祉サービスの組織と経営に関する基礎理論②（講義、形成的評価） 集団の力学に関する基礎理論、リーダーシップに関する基礎理論
4	福祉サービス提供組織の経営と実際（講義、形成的評価） 経営体制、財源、福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス、 福祉サービス提供組織における人材養成と確保、 福祉サービス提供組織の経営の実際
5	福祉サービスの管理運営の方法と実際①（講義、形成的評価） 適切なサービス提供体制の確保、働きやすい労働環境の整備
6	福祉サービスの管理運営の方法と実際②（講義、形成的評価） 福祉サービスの管理運営の実際
7	授業内容のまとめ

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（専門科目：高齢者に対する支援と介護保険制度）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		17回 34時間	
[担当教員および実務経験]			
渡辺 康子 (病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務)			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「高齢者に対する支援と介護保険制度」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 高齢者の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について説明できる。 ・ 高齢者福祉制度の発展過程を説明できる。 ・ 介護の概念や対象、理念などについて説明できる。 ・ 介護過程における介護の技法を説明できる。 ・ 介護予防の基本的な考え方を説明できる。 ・ 終末期ケアのあり方を説明できる。 ・ 介護保険制度の概要を説明できる。 ・ 高齢者の福祉・介護に係る法制度（特に高齢者虐待防止法）の概要を説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 社会福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士国家試験受験ワークブック 2023 [専門科目編]』中央法規出版、2022年 ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説 2023』メディックメディア、2022年			
[備考]			

【授業計画(内容)】	
1	認知症ケア
2	介護の概念や対象、介護予防、介護過程①
3	介護過程②
4	終末期ケア、介護と住環境、介護報酬

5	地域包括支援センターの役割と実際
6	高齢者虐待防止法、バリアフリー新法、高齢者住まい法
7	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要①
8	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要②
9	高齢者福祉制度の発展過程
10	老人福祉法
11	介護保険法、介護保険制度の概要①（行政の役割分担）
12	介護保険制度の概要②（保険者・被保険者・要介護認定）
13	介護保険制度の概要③（保険給付：介護給付、予防給付①）
14	介護保険制度の概要④（保険給付：介護給付、予防給付②）
15	介護保険法における組織・団体、専門職の役割と実際
16～17	問題演習（過去問題・模擬問題）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		15回 30時間	
[担当教員および実務経験]			
星野 和幸			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 児童・家庭を取り巻く現状を理解し、具体的な数値を答えることができる。 ・ 児童の権利の発展過程の流れを説明できる。 ・ 児童分野における日本の慈善事業家について説明できる。（明治から昭和初期） ・ 諸外国の児童福祉実践者について説明できる。 ・ 児童の定義について説明できる。 ・ 児童権利条約について説明できる。 ・ 児童福祉法の概要について理解できる。 （理念、児童福祉施設、障害児支援、子育て支援事業、保育所、里親制度） ・ 児童虐待防止法の概要について理解できる。 ・ DV防止法の概要について理解できる。 ・ 母子及び父子並びに寡婦福祉法の概要について理解できる。 ・ 母子保健法の概要について理解できる。 ・ 児童手当法の概要について説明できる。 ・ 児童扶養手当法の概要について説明できる。 ・ 特別児童扶養手当法の3つの手当について説明できる。 ・ 少子化対策及び次世代育成支援対策に関する法と施策の流れについて理解できる。 ・ 売春防止法における婦人相談所、婦人保護施設および婦人相談員について説明できる。 ・ 民生委員と児童委員の役割を説明できる。 ・ 児童相談所の役割について理解できる。 ・ 児童相談所と市町村および各種機関との連携について理解できる。			

〔成績評価の方法と基準〕 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
〔使用テキスト・参考文献〕 ・ 社会福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士国家試験受験ワークブック2024〔専門科目編〕』中央法規出版、2023年 ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2024』メディックメディア、2023年
〔備考〕

〔授業計画(内容)〕	
1	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢 (合計特殊出生率、母子世帯数の状況、児童虐待の実態、子どもの貧困対策)
2	児童・家庭福祉制度の発展過程 (児童の権利、日本の慈善事業家、諸外国の児童福祉実践者について)
3	児童の定義と権利 (児童の権利に関する条約)
4	児童福祉法① (理念、対象、児童福祉施設、障害児支援、児童福祉法関連事業)
5	児童福祉法② (保育所等、要保護児童の保護措置、里親制度)
6	児童虐待防止法／DV防止法
7	母子及び父子並びに寡婦福祉法／母子保健法
8	児童手当法／児童扶養手当法／特別児童扶養手当法
9	次世代育成支援対策推進法／少子化社会対策基本法／売春防止法
10	児童・家庭福祉制度における関連機関と関係職種の役割 (国・市町村・都道府県・家庭裁判所・民生委員と児童委員・他職種の役割)
11	児童相談所の役割と各種機関との連携① (児童相談所の組織体系、市町村・医療機関・教育機関との連携)
12	児童相談所の役割と各種機関との連携② (児童相談所の活動の実際)
13～15	問題演習 (過去問題・模擬問題)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策 (専門科目：就労支援サービス)		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		5回 10時間	
[担当教員および実務経験]			
圓山 里子			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「就労支援サービス」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
本試験の正答率6割を目指して、次の目標に取り組む。 ・ 障害者就労に関して「障害者雇用促進法」に関わる頻出事項（法定雇用率など）を覚える。 ・ ハローワークの役割と「求職者支援法」の対象及び手続について主要事項を覚える。 ・ 労働法規の基本枠組みを理解する。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2024 [共通科目編]』中央法規出版、2023年 ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2024』メディックメディア、2023年			

[備考]

[授業計画(内容)]

1	就労支援①（雇用、就労に関する動向）
2	就労支援②（ハローワークの役割、求職者支援法）
3	就労支援③（障害者雇用促進法、法定雇用率、納付金制度）
4	就労支援④（障害者就労に関わる専門機関の役割、事例問題）
5	就労支援⑤（低所得者に関わる就労支援、自立支援プログラム）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（専門科目：更生保護制度）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		5回 10時間	
[担当教員および実務経験]			
星野 和幸			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「更生保護制度論」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの高得率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 更生保護制度の制度概要について説明することができる。 ・ 保護観察の制度趣旨について説明することができる。 ・ 更生保護に関する専門職と組織について説明することができる。 ・ 医療観察制度の制度趣旨について説明することができる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 社会福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士国家試験受験ワークブック2024 [専門科目編]』中央法規出版、2023年 ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2024』メディックメディア、2023年			

[備考]

[授業計画(内容)]

1	更生保護の全体像、少年非行
2	保護観察制度、仮釈放等、生活環境の調整、更生緊急保護、犯罪被害者等施策
3	保護観察官・保護司、更生保護にかかわる組織・団体と連携
4	医療観察制度
5	更生保護のまとめ